

# 脳血管内治療の最新デバイス

大学院医学系研究科脳神経外科学

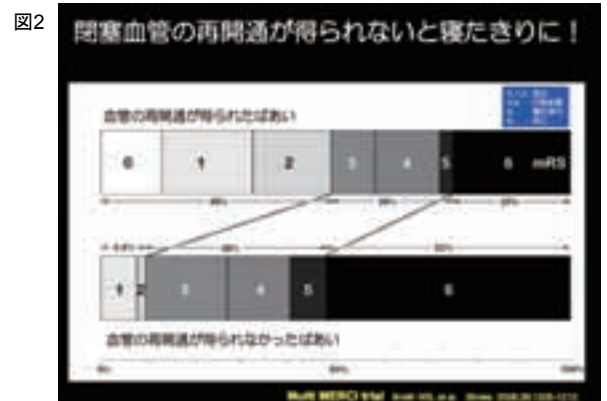
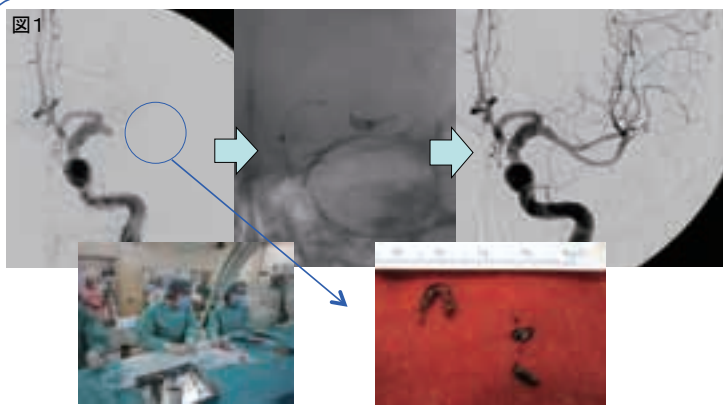
助教・榎本由貴子

E-mail enomoto@gifu-u.ac.jp

## 概要

脳血管内治療は、従来からの脳動脈瘤に対するコイル塞栓術や動脈硬化性狭窄に対するステント留置術のほか、最近では急性期脳梗塞に対する血栓回収療法の有効性が注目され、色々な血栓回収機器が次々と開発されている。その最新デバイスを紹介する。

## 内容



急性期脳梗塞において、動脈につまった血栓をカテーテル治療(図1)によって発症早期に再開通させることができれば、麻痺などの後遺症を劇的に改善させることができる(図2)。

そのため、より高い血栓捕捉能力を求めて色々なデバイスが開発されつつある。現在最新のステント型(図3)では90%近い再開通率が報告され、急性期脳梗塞診療に福音をもたらすことが期待されている。

## アピールポイント

### 中高生のみなさんへ

ひとむかし前は脳梗塞はなったら仕方のない病気でしたが、ここ10年の間に予防法から治療法、その後の神経再生療法に至るまで急速に進歩してきています。当講座では、このようなカテーテル治療を臨床の現場で積極的におこなっているほか、ラット虚血モデルを使った脳卒中研究、ヒト血小板を用いた血栓症に起因する細胞内情報伝達経路の基礎研究などもおこなっています。

### 産業界・地域の方へ

脳血管内治療では、これ以外にも動脈瘤塞栓術用コイル・血管拡張用ステントなど、用途に応じた様々なデバイスを使用しています。しかし、脳腫瘍の術前塞栓術に使用する粒子状塞栓物質(200-300 $\mu$ mサイズのPVA particle)が現在国内で入手困難であり、個人輸入に頼っているのが現状です。新規粒子状塞栓物質のアイデアがありましたら、是非ご連絡ください。